

安楽寺だより 第9号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目 12-18 電話：03-3451-1509 FAX：03-3798-2238

発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/anrakuji>

新年のご挨拶を申し上げます

昨年は日本社会が大きな悲しみに包まれ、色々なことを考えさせられました。将来に対する不安な気持ちを抱えたまま、新しい年を迎えた方も少なくないのではないのでしょうか。

元日の朝は地平線に分厚い雲が立ちこめていましたが、やがて力強い日の光が雲の間から射ってきて嬉しく感じました。



（多摩川河川敷で見た元旦の朝日）

楽観できない現実の中にも明るい兆しを見つけていきたいと思えます。



（京都本願寺・御影堂のお荘厳）

親鸞聖人 750 回大遠忌法要は、1月9日から16日までを御正當（ごしょうとう）とって、とくに懇ろにお勤めします。

50年に一度のまたとない機会ですので、12日の法要に出勤させていただきました。午前6時、10時、午後2時の3座に列衆として御影堂内陣に座らせていただき、お経を唱えました。

歴史ある本願寺の御堂でお勤めする貴重な経験をさせていただき、身の引き締まる思いです。

《あれこれ抄》

▼「安楽寺だより」第9号をお届けいたします▽初号発行から満二年が経ちました。▼お正月恒例となっている「箱根駅伝」をテレビ観戦で楽しみました▽昨年二十一秒という僅差で涙を吞んだ東洋大学が、雪辱を晴らすために挑んだドラマには心から感動しました。▽「思い」が人を強くし結束力を高めるということを改めて教えてくれた気がします。▼日本の人口減少がさらに加速しているというニュースがありました▽私たちは一体、どんな社会に向かっているのでしょうか？▽将来に対するワクワク感を取り戻したいものです。▼おかげさまで前住職を始めとして、寺の者はみな元気に正月を迎えることができました▽今年もどうぞよろしくお願いたします。

報恩講法要をお勤めしました

さる11月10日、安楽寺として最も大切に行っている行事の1つである「報恩講法要」をお勤めしました。

宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご恩に報いる法要が「報恩講法要」です。今回はとくに「親鸞聖人750回大遠忌」という節目でもあったので、前住職が導師を務めました。



七條という最高の袈裟をつけ、勤め合いをしている芝組の法中仲間とともに内陣に進み、登礼盤（ご本尊前にある礼盤という台座に座ること）をして「正信念仏偈」のお勤めをしました。

ご門徒のみなさんも一緒に唱え、大きな声の本堂に響きわたりました。

お勤めに引き続いて、浄土真宗本願寺派布教使で法重寺住職の南條了元師にご法話をいただきました。



親鸞聖人が報いようとした“ご恩”は、仏さま（阿弥陀さま）の「仏恩」、師と仰ぐ法然上人の「師恩」でした。その“ご恩”に出遭えたことが「知恩報徳」という慶びだとの親鸞聖人のお考えにも触れていただきました。



【お経のお言葉】

※みなさんに知っていただきたいお言葉を紹介します。

だいひおけんじょうしょうが

大悲無倦常照我

大悲ものうきこと無くて
常に我を照らしたまえり

親鸞聖人の書かれた『教行信証』の行巻末の偈文「正信念仏偈（しょうしんねんぶつげ）」にあるお言葉です。

「大悲」とは仏さまの大いなる慈悲心のことで、私たちが必ず救ってくださろうとするお心（願い）のことです。そのお働きは決して休む（倦む：嫌になったり飽きたりする）ことがなく、いかなるときでも私を照らしてくださっている、と示してくださいました。

“願い”をかけられていることをうっかり忘れてしまいましたが、先行きの不安な世の中だからこそ、覚えておきたいお心ですね。

東北の被災地に行って思うこと

11月と12月にそれぞれ数日間、岩手県の被災地に行きました。現地に常駐している支援グループの活動に合流し、仮設住宅を訪ねて回りました。多くの人々がまだまだ大変な状況の中にいらっしゃいます。

右の写真は前号で紹介した岩手県大槌町の沿岸部のその後です。津波に集落全体が呑みこまれ住宅の基礎だけが残った悲しい情景は、まだ何も変わっていません。

12月頃から凍てつくような厳しい寒さが現地を襲い、将来の展望が見えないもどかしさや、ほとんど進まない「復興」に気力を削がれる人も出てきたように感じます。



震災募金をありがとうございました

玄関先に置いた募金箱には¥69,400 (1月15日まで累計)のご寄付をお預かりしました。築地本願寺の災害対策委員会にみなさまのお気持ちと一緒に届けてきます。



今すぐに画期的なことはできませんが、「悲しみに寄り添い、思いを分かち合う」という態度で「関心を持ち続ける」ことが必要だと思います。

生活が落ち着きを取り戻すにつれ、地域の方々には複雑な“思い”が湧き起こってきます。その一方で、言いたいことを言えない苦しみが強くなってくるようです。

そこで、安心して“思い”を語ることでできる「場」づくりができないものかと、現在関係機関と調整中です。今後は、そのようなお手伝いをしようと考えています。

【住職の書籍紹介】

『そっと後押し きょうの説法』

(幻冬舎・そっと後押し僧侶の会著・税込 1155円)

早朝テレビ番組の中で、視聴者にほんの少しでも元気になってもらえるようなお話を仲間とともに届けてきました。4～9月に放映された74話を、番組コーナーと同じ名前の本として発行しました。住職の話は12回分が採録されています。

見開きで1つの話が完結しているので、好きなときに好きな話を読むことができます。

全国書店で好評発売中ですので、ご一読ください。

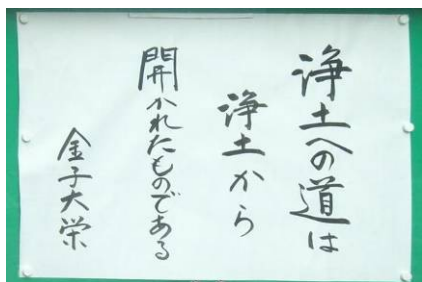
<採録されている話の例>

- ・あなたの笑顔が大切な人を元気にする
- ・力を合わせることで願いに近づく

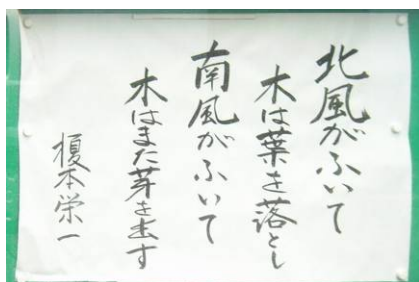


月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

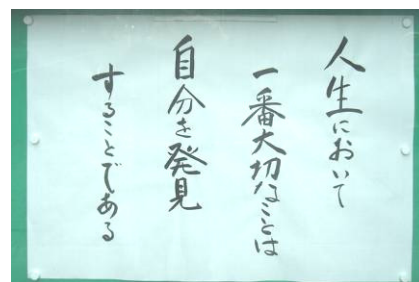
お寺の入り口に、その時々のお寺の言葉を掲げています。(1か月毎)



2011年11月



2011年12月



2012年1月

住職の自死対策活動

住職は自死(自殺)対策という“生きる支援”に取り組んでいます。

仲間と共に手紙相談や分かち合いの集い、追悼法要といった活動を行っています。



会の代表として住職が挨拶



多くの参列者と僧侶が一堂に

昨年12月1日に、増上寺(浄土宗大本山)において自死者追悼法要を執り行いました。170人を超える参列者(自死遺族)と約70人の僧侶が一堂に集まり、ゆっくりと“いのち”を見つめ直す時間を過ごしました。

テレビ朝日「やじうまテレビ!」に
住職と仲間の僧侶が登場します!

「そっと後押し きょうの説法」

毎週(火)(水)(木)

午前5時43分頃～ 約3分間

※ぜひご覧ください。

◇◇

住職は4月・5月・8月・11月の(火)の担当を無事に終えました。次の登場は、2月7日、14日、21日、28日の毎(火)の予定です。

テレビに出させていただくご縁をととてもありがたく受けとめています。

4月～9月放映分の話が本になりました。(前ページに本の紹介があります)



安楽寺の本堂で収録しました(11月放映)